

1 【今年度の取組目標・方策】についての自己評価

(1) 学習指導

- ① 各教科で難関国公立大学入試を見据えた到達目標を設定して取り組んだが、進路目標数値に達しなかった。次年度以降、より生徒の実態に合った指導計画を作成して確実に実行することが課題である。
- ② 問いを中心とした思考力・判断力・表現力を育む探究的な授業を各教科において実践できた。
- ③ 学期ごとに適切な観点別評価を行い、学習指導に反映させることができた。
- ④ 生徒全員が質の高い課題研究に取り組めるよう、ゼミごとの担当者が指導・助言を行った。外部発表数が増加した。
- ⑤ S S コミュニケーションの授業や海外研修（タイ、アメリカ）を通して、国際性の育成を図った。
- ⑥ 読書活動を充実させ、本を読む習慣づけを行ったが、やや貸出数は低下した。
- ⑦ 個人端末の活用が進んでいるが、個別最適化した学び、協働的な学びの成果には不十分であった。
- ⑧ 生徒による授業評価アンケートの結果を教員にフィードバックし、学習指導の改善に繋がった。

(2) 進路指導

- ① 進路検討会において全教職員で生徒の学習状況及び進路情報の共有を図ることができた。情報共有後、どのような指導に結び付けていくかが今後の課題である。
- ② 模擬試験の学力上位層の分析が図られた。
- ③ 難関国公立大学現役合格を目標とさせる指導を継続し、昨年度と同割合のフル型受験者となった。継続して全教科・科目を広く深く学習する意識をもたせる進路指導を行う。
- ④ 卒業生等による進路講演会を実施し、在校生の学習改善と意識向上が図られた。

(3) 生活指導

- ① マナー（特にSNS）順守、遅刻防止を重点的に指導した。
- ② 「ダイバーシティ」、「多様性の尊重」について指導を行った。課題は見られなかった。
- ③ いじめ・体罰0を実現した。内面の悩みを抱える生徒は増加傾向である、
- ④ 生徒の変化に対応し家庭やSCと連携しながら自虐・自殺防止に努めた。大きな課題はなかった。

(4) 特別活動

- ① 生徒が主体となる特別活動を推進し、自主自律的に取り組む姿勢が養われている。
- ② 学習・特別活動それぞれへの「集中」と「切り替え」の徹底を図った。
- ③ 「臨海教室」を感染対策に配慮して実施できた。コロナ感染による欠席者は大きく減少した。
- ④ ボランティア活動等、地域との交流に積極的に取り組む生徒がみられ、地域から高く評価された。
- ⑤ 体育的行事や部活動を通して体力向上に取り組んだ。

(5) 広報・募集対策

- ① 学校ホームページの充実に取り組み、更新回数が増加した。
- ② 学校説明会等、公開行事での広報活動を充実させたが、昨年度より入試倍率はやや減少した。

(6) 学校運営・組織体制

- ① 全教職員が学校経営計画を踏まえ、各分掌業務に取り組んだ。大きな課題は見られなかった。
- ② 定時制教職員・経営企画室職員との意思疎通が円滑に行われた。大きな課題は見られなかった。
- ③ 経営企画室からの企画提案を推進したが、顕著な成果は見られなかった。
- ④ 校内美化に努めたが、学校見学者からは改善を求める声が例年同様に多かった。
- ⑤ 今年度から新たに超過勤務時間一覧を全教員に配布し、一定の抑止効果が認められた。
- ⑥ PTA・同窓会（紫芳会）との良好な連携が維持でき、円滑な運営を実現できた。

【重点目標・数値目標】 過去5年間の推移

- 大学入学共通テスト受験者のうちフル型受験者数 240名以上
(H31:228 R2:231 R3:244 R4:244 R5:231) 未達成
- 難関国公立大学(東大・京大・一橋大・東工大・医学部医学科)現役合格者数 20名以上
(H31:12 R2:14 R3:17 R4:21 R5:19) 未達成
- (東大・京大を除く)旧帝大現役合格者数 16名以上
(H31:9 R2:9 R3:16 R4:19 R5:11) 未達成
- 学校評価アンケートで「入学して良かった」と回答する生徒の割合 90%以上
(H31:87.2 R2:90.2 R3:93.5 R4:89.9 R5:92.8) 達成
- 平日の家庭での予・復習時間 1年生:150分以上 2年生:150分以上
1年生 (H31:123.8 R2:141 R3:112.3 R4:151.0 R5:85.6) 未達成
2年生 (H31:113.4 R2:151 R3:142.2 R4:130.7 R5:95.5) 未達成
- 入学者選抜の最終応募倍率 推薦:(普)3.5倍/(理)2.0、一般:(普)2.00倍/(理)3.50倍
推薦 (H31:3.08 R2:3.98 R3:普 3.33/理 2.00 R4:普 3.50/理 1.50 R5:普 2.95/理 1.13) 未達成
一般 (H31:1.77 R2:1.63 R3:普 1.95※/理 3.70 R4:普 1.96※/理 3.66 R5:1.86※/2.71) 未達成
※R3以降の普通科の倍率=(普通科専願者数+普通科・理数科併願者数)/普通科募集人員数

3 【重点目標達成のための具体的方策】についての自己評価(4段階)

(1) 学習指導 :質の高い授業実践と自学自習の態度の育成

- ア 大学入試問題研究に取り組み、その傾向と対策を踏まえた学期末・学年末までの学習到達目標を設定し、授業・課題・講習等を統合した指導計画を作成・実行する。(B)
- イ 1・2学年で模擬試験のある教科・科目は「平均偏差値」及び「成績上位層数(SS70以上)」の数値目標を、また、3学年で共通テストのある教科・科目は「全国平均点」との得点差及び8割以上得点者の割合の数値目標を設定し、目標達成を図る。(C)
- ウ 全教員が年間1回以上、生徒の端末を活用し、個別最適化した又は協働的な学習を実践する。(C)
- エ 全教員が、(他教科を含む)年間3回以上の相互授業参観を行い、授業改善に取り組む。(B)

(2) 進路指導 :高い目標を目指す集団作り

- ア 進路部が主体となり進路指導計画・面談計画を作成し、学年と連携して確実に実行する。(B)
- イ オリエンテーション、学年集会や保護者会等で、第一志望を貫き、現役で難関国公立大学等に合格するという目標が堅持されるように指導する。(B)
- ウ 学校で学習する、生徒同士で切磋琢磨するという意識を育むため、自習室等の活用を積極的に呼びかけ、一日あたりの平均使用人数を現状の1.2倍に増加させる。(C)
- エ 学習時間調査結果をフィードバックし1・2年生とも一日平均150分以上の学習時間を達成する。(D)

(3) 生徒指導 :自主自律の精神・多様性を認める意識・態度を涵養する生徒指導

- ア 多様性を認め、相手の立場に立った言動のできる生徒を育成し、いじめ0を達成する。(A)
- イ 生徒の自主性を重んじながらも放任せず、見守る・支える立場での生徒指導を徹底する。(A)
- ウ 遅刻防止、挨拶の徹底など、社会性の涵養、基本的生活習慣の確立に向けた指導を全員で行う。(C)
- エ 発達障害に関する知識を全教職員で共有し、個別案件に対しての適切な対応体制を作る。(A)
- オ 必要に応じて、個別の指導計画や個別の教育支援計画を作成し、個への対応に努める。(A)

(4) 特別活動 :学習の上に成り立つ部活動・学校行事等の実践

- ア 部活動顧問及び行事担当教員は今年度の活動目標を定め、部活動指導員を活用している部活動は指導員とも目標を共有して、目標達成に向けて取り組む。(B)
- イ 学習の上に成り立つ部活動・学校行事であることを理解させ、集中とメリハリを意識させて、学習・部活動・学校行事等の両立を図る指導を徹底する。(C)

(5) 広報・募集対策 :効果的な広報活動の展開

- ア 全教職員が関わり、各種説明会等において効果的な広報活動を行うことで応募倍率の向上に努める。(B)
- イ 学校ホームページの更新計画を作成し、計画通りに更新することで目標とする180回の更新を達成する。それにより、生徒の日常の活動が見えるような情報を発信する。(B)
- ウ 掲示物等の工夫をして、来校者への情報提供を積極的に行うとともに親切な対応に努める。(B)

(6) 学校運営・組織体制 :教職員一丸となった組織的・計画的な学校運営

- ア スクールカウンセラー等による校内研修を充実させ、生徒が健全な学校生活を送れるように支援する。(A)
- イ PTA・同窓会(紫芳会)との連携を強め、生徒のサポート体制を確実に維持する。(A)
- ウ 保有個人情報の取扱い・入学者選抜業務については、細心の注意を払い、事故ゼロとする。(A)
- エ 教職員の働き方改革を強く意識させ、残業時間の減少を図る。(C)
- オ 各種会議・委員会を計画的に、時間制限を設けて効率的に運営する。(B)